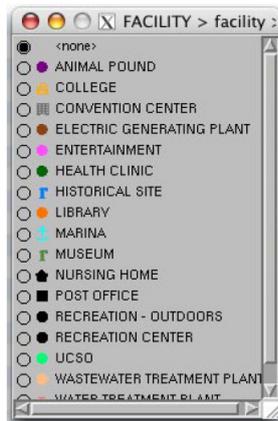


値一覧を使った属性の簡単割り当て

値一覧とは？

値一覧とは、図形オブジェクト中の1つまたは複数の要素に対して、予め設定した文字列の属性をワンクリックで選択するウィンドウです。値一覧ウィンドウは手早く容易に操作でき、属性値の割り当てを簡単に行えます。表示または編集作業において使え、要素にアタッチする属性テーブルに対して複数の値一覧ウィンドウを使うことができます。右図は、"FACILITY"という文字フィールドに対する値一覧の見本です。



値一覧テーブルは、既存の属性テーブルの文字フィールドの値からいつでも作成できます。値一覧テーブル、属性テーブルに新たに文字フィールドを追加する際に作成することもできます。値一覧テーブル内のデータはいつでも編集、追加が可能で、スタイルも追加、変更が可能です。既存の属性構造を再利用するために用意したテンプレートには、全ての値一覧テーブルのデータやスタイル割り当てが保存されています。

ウィザードを使って値一覧テーブルの作成・編集

値一覧ウィザードを使うと、図形要素に対して1対1でアタッチする属性テーブル中の文字フィールドに対して値一覧を作成、編集できます。〈テーブルプロパティ〉ウィンドウの[値一覧の設定 (Setup Picklist)] ボタンをクリックすると、値一覧ウィザードが開始します。ステップに従って操作することで、値一覧テーブルを作成し、データ(文字値)を入力して、関連するスタイルをリンクします。[値一覧の設定] ボタンは、既存の値一覧テーブルにアクセスしたり、値やスタイルの追加、編集にも使えます。

テキストやテーブルから値一覧を作成

値一覧用に使用する値はTNTのテーブルやテキストファイルの形で存在するかもしれません。その場合は、値一覧ウィザードを使って手動で値入力をする必要はありません。値一覧テーブルとして使うテーブル内にある文字フィールドは、別の属性テーブルの文字フィールドにリレートすることで、値一覧として使うことができます。既存のテーブルを値一覧テーブルとして使うには、次のようなTNTでのテーブル作成や管理方法についてある程度習熟している必要があります。

- テーブルのコピー、テキストをデータベースにインポートする方法
- 要素に直接アタッチする属性テーブルの作り方
- 〈テーブルプロパティ〉ウィンドウを使った、直接アタッチの属性テーブルと値一覧テーブルのリンクのし方。

値一覧の使い方

- マウスをワンクリックするだけで属性が割り当てられます。
- キーボードなしで操作できます。
- シンボルやパターンを使って、すばやく選択できます。
- テーブル内の複数フィールドに使えます。
- 値一覧から選んだ後、関連する計算フィールドを実行して自動的にレコードを発生させることもできます。
- 値一覧を使用している図形オブジェクトから作成したテンプレートには、自動的に値一覧が含まれます。

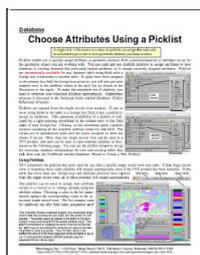
値一覧テーブルとは？

値一覧テーブルには、ある地域に存在する全ての土壤タイプを含めることができます。値一覧ウィンドウをワンクリックして、新規または選択したポリゴンに土壤タイプを書き込めます。

また、値一覧テーブルにはマンホールやガスメータ、ケーブルボックス、水道メータといった、インフラの調査時に使用するポイント要素のタイプを含めることもできます。値一覧テーブルに含まれていないタイプの地物も、簡単に追加できます。

予め用意した値一覧テーブルは、指定のカテゴリーまたは値のみを与えることで制約条件として使用できます。

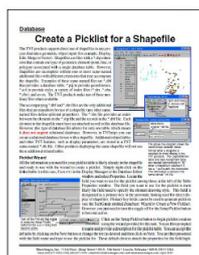
詳しくは、値一覧に関連する以下のテクニカルガイドをご覧ください。



データベース：値一覧を使った属性の選択



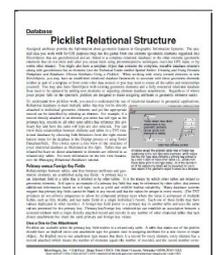
データベース：新規値一覧を作成するウィザード



データベース：シェイプファイルに値一覧を作る



データベース：テーブルまたはテキストから値一覧を作成する



データベース：値一覧のリレーショナル構造